

音読を「はい、3回読んで」で流していないでしょうか。同じ回数でも、音読は種類を使い分けると効果がまるで変わります。この記事は、代表的な8種の音読を「今日は何のために読ませるのか(理解／定着／暗唱)」で選べるよう、ねらい別の早見表とともに解説します。特定の教科書・単元に依存しない方法論です。

この方法で解決できる悩み

- 音読が単調な繰り返しになり、生徒が飽きている
- 何のために読ませているのか、自分でも曖昧なまま流している
- 読めているようで、内容も表現も定着していない

音読は「理解→定着→暗唱」の3段階で進む

音読の種類は、本文をどこまで自分のものにするかの段階に対応しています。まず意味をわかって読む(理解)、次に見ないとも言えるへ近づける(定着)、最後は自分の言葉として使える(暗唱・発展)。段階に合った種類を選ぶのがコツです。

8種の音読と使い分け

理解の段階(意味と音を結ぶ)

- ①追い読み(リピート): 教師/音声の後に続けて読む。最初の1～2回。正しい音とチャンクを入れる
- ②スラッシュ音読: 意味のかたまりで区切った本文を読む。どこで切るか＝意味の把握
- ③オーバーラッピング: 音声に重ねて同時に読む。スピードとリズムを body に入れる

定着の段階(見る回数を減らす)

- ④バズ音読: 各自が自分のペースで小声で何度も。全員が同時に声を出す時間を確保
- ⑤穴あき音読: キーワードを空欄にした本文を読む(頭の中で補う)。空欄を増やすほど負荷が上がる
- ⑥ペア音読(役割読み): 対話文を役割分担。相手がいると緊張感が出る

暗唱・発展の段階(本文を離れる)

- ⑦Read & Look up: 1文を目で読む→顔を上げて本文を見ずに言う。「読む」から「言える」への決定的な橋
- ⑧シャドーイング: 本文を見ずに音声を追って影のように言う。最難関。暗唱の一步手前

ねらい別・早見表

今日のねらい	おすすめの音読
新出パートに初めて触れる	①追い読み → ②スラッシュ
リズム・スピードを上げたい	③オーバーラッピング
とにかく声を出す量を稼ぐ	④バズ音読
定着したか確かめたい	⑤穴あき(空欄を段階的に増やす)
対話文を生き生きさせたい	⑥ペア音読
暗唱・スピーチにつなげたい	⑦Read & Look up → ⑧シャドーイング

1コマでの組み合わせ方

音読は1種類を長くやるより、負荷の低い順に3～4種を短く重ねるのが飽きさせないコツです。

1. 追い読み(1分)→ 意味と音を確認
2. スラッシュ音読(1分)→ 意味の区切りを意識
3. バズ音読(2分)→ 各自で回数を稼ぐ
4. Read & Look up(2分)→ 見ないで言えるへ

同じ6分でも、「3回読んで」より圧倒的に定着します。

穴あき音読とRead & Look upは、そのまま定着度の「見える化」になります。穴を増やしても言える＝定着した証拠。生徒自身も「昨日は半分見ないと言えなかったのに、今日は空欄でも言える」と成長を実感できます。音読の最後にこの2種を置くと、練習が達成感で終わります。

本文の授業シリーズ

音読は、オーラル・イントロダクション(読む前の内容導入)と内容理解の発問のあと、リテリング(本文を離れて再生)の前に置く工程です。汎用「本文パート攻略シート」のTask 1(音読タイムトライアル)を、この8種のどれで行うか選ぶだけでも、毎時間の音読の質が変わります。